〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は自治会などを通じ全戸配布されるほか、市役所および関連施設で配置配布しています。また博物館公式 Web からもご覧いただけます。

2018
夏号
第63巻1号

無料
Free

表紙の1枚／巻頭言 ……1
・シンポジウム＆ディスカッション
「カクネ里氷河の魅力と岳のまち大町の未来」
・山と博物館は季刊誌となりました。
さんぱく研究最前線
―北アルプスの自然と人　トピックス― ……2～3
・セミのぬけがら調べ
博物館のひろば ……4～5
・研究紀要第3号を発行
・理科野外学習「八坂地区の地層観察」
・山岳博物館友の会から創立40周年記念品
・地域の自然を題材とした研究に協力　ほか
こども博物館／夏休み特集 ……6
・大町のでかい!!昆虫
山博友の会だより ……7
・平成30年度総会・40周年記念講演・40周年記念パーティ　ほか
展示・イベントのご案内 ……8
平成30年度市立大町山岳博物館企画展
「北アルプス誕生―激動の500万年史―」
企画展関連催し
・ミュージアムトーク　・親子化石教室
・北アルプス地質見学登山
"信州"山の自然楽講座
第14回安曇野アートラインシンポジウム

シンポジウム&ディスカッション
「カクネ里氷河の魅力と岳のまち大町の未来」
6月9日開催
市内はもとより、県内外から一三〇名を超える参加がありました。

山と博物館は季刊誌となりました。

今回発行分から山と博物館は季刊誌（夏・秋・冬・春の年４回）として発行することとなりました。山岳文化宣言のまちとして、市民の皆様が山岳博物館をより身近に感じていただけるよう、今まで以上に内容を充実し、市内全戸の市民の皆様等に配布することとい たしましたので、ご愛読いただければ幸いです。

山岳博物館からの旬な情報や収蔵コレクションの紹介やコラム、イベントのお知らせなどを掲載するとともに、山岳博物館友の会（通称：山博（さんぱく）友の会）の活動紹介なども予定しておりますので、是非ご覧ください。

◆市立大町山岳博物館は、月曜日と祝日の翌日が休館です。月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館となります。なお７・８月は無休です。
◆開館時間は、午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）です。
◆毎月第３日曜日の「家庭の日」とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。この日は市民の方は無料、市民以外の長野県民の方は団体割引料金で観覧いただけます。今季は7月14・15日、8月18・19日、9月15・16日が実施日となります。

博物館施設案内はこちら

セミのぬけがら調べ

生物の観察を長年続けると、いろいろな変化がみえてきます。この変化がどちらの方向に向かっているのかなど、自然環境の状態がわかります。

ぬけがら探しをなぜ始めたのか？

昆虫は温度にとても敏感で、セミも例外ではありません。セミは地中で数年間幼虫時代を過ごし、成虫も長い距離を飛んで移動することもないと考えられていることから、生息している場所の環境変化の影響を受けやすいと推測されています。

近年の気温の上昇（地球の温暖化）によって、セミが生活している場所が変わってきていると言われています。今までいなかったセミが見つかったり、逆にたくさんいたセミが減ってきたりするかもしれません。

大町のセミたちは今後どうなっていくのでしょうか？このことを調べるため、2013年から長野県環境保全研究所と山岳博物館が、毎年セミのぬけがら調査を行っています。調査はこども向けの環境学習講座を兼ねて、データを集めながら、子どもたちにこの調査の大切さを伝えています。

▲セミのぬけがらを集めます。

長野県のセミたちは？

セミは日本に35種類います。そのうちの12種類が長野県に生息しています。長野県は、標高が低く暖かい地域から、標高が高く涼しい地域まであるので、多くのセミが生息できるのです。

セミのぬけがら調査

ぬけがらをみればセミの種類がわかります。

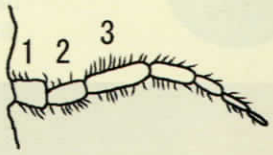
ぬけがらを採取し分類することで、そこにいるセミの種類や、たくさんいるセミと、少ないセミの違いがわかります。それを毎年同じ場所で続けることで、セミの変化がわかってきます。

分類するときには、ぬけがらの大きさ、色、泥の付き方、触角の特徴をよくみます。

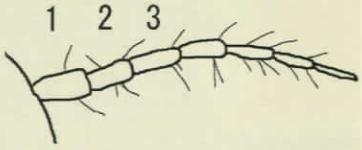
①大きさと泥で分けます。
- 大きいグループ
- 小さくて泥がついていないグループ
- 小さくて泥がついているグループ（ニイニイゼミ）

②大きいグループを分けます。
- 殻が透明（アブラゼミ、ミンミンゼミ）
- 殻が不透明（エゾゼミ、コエゾゼミ、アカエゾゼミ）

③透明のグループを触角で見分けます。
- 触角の3番目が２番目より長く、毛が多く太い（アブラゼミ）

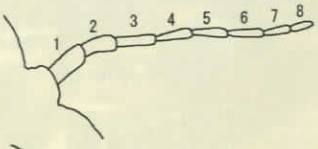


- ３番目と２番目が同じ長さで、毛が少なく細い（ミンミンゼミ）

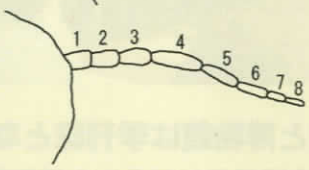


④不透明のグループを分けます。
- 殻が3ｃｍ以上で光沢が少なく黒ずむ（コエゾゼミ）
- 殻が3ｃｍ以下で全体に赤褐色（エゾゼミ）
- 殻が3ｃｍ以下で全体に黄褐色（アカエゾゼミ）

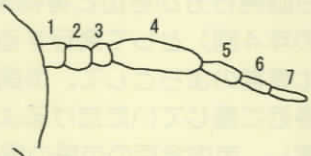
⑤小さくて泥がついていないグループを触角で分けます。
- 節が８個で4番目より３番目が長い（ツクツクボウシ）



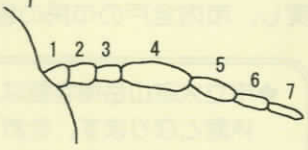
- 節が８個で3番目より４番目が長い（ヒグラシ）



- 節が７個で４番目は３と５番目を合わせたより長い（ハルゼミ）



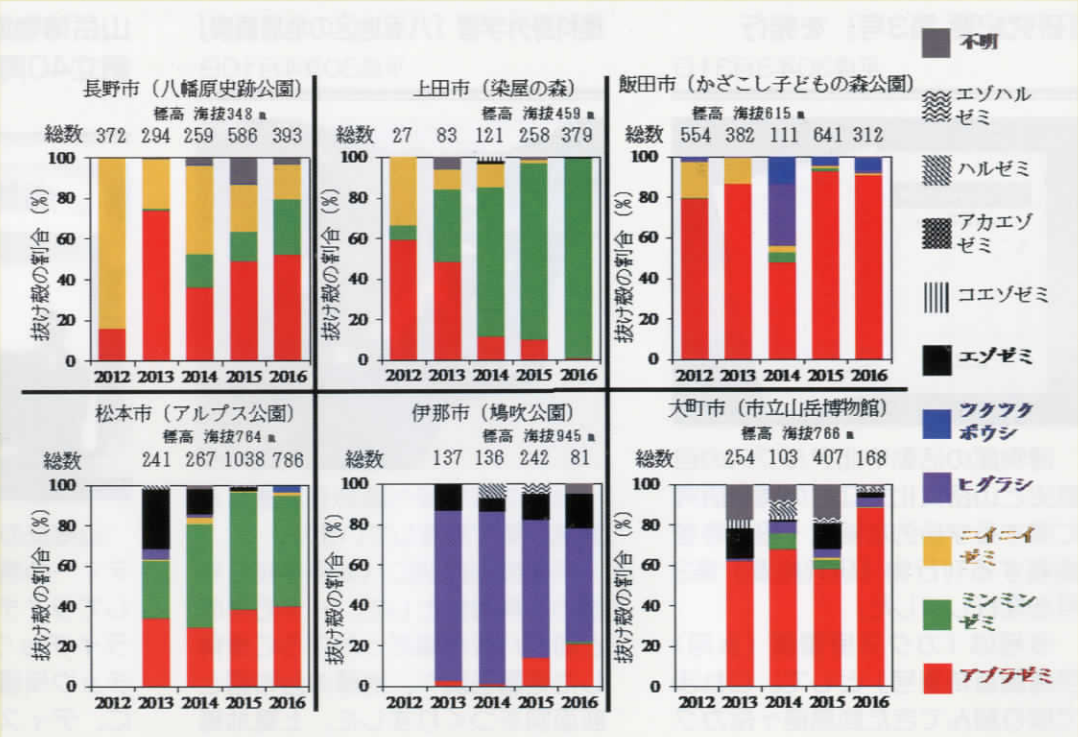
- 節が７個で４番目は３と5番目を合わせたより短い（エゾハルゼミ）



※分類する時に触角が決め手になります。触角はもろくて取れやすいので、採取する時には気をつけましょう。

大町のセミたちは？

2013～2017年に大町で調査した結果を、県内の他の5地点と比較してみます。大町のぬけがらを調べてわかったことは、アブラゼミが多く、その他のセミの数が少ないことです。しかし、他の地点に比べて種類が多く、特に他ではみられないコエゾゼミやアカエゾゼミが見つかります。エゾゼミの仲間が多く見つかるのは、標高が高く、気温が低いためと考えられます。



アブラゼミ

ミンミンゼミ

エゾゼミ

コエゾゼミ

アカエゾゼミ

ヒグラシ

ニイニイゼミ

ハルゼミ

エゾハルゼミ

今後は？

地球温暖化によるセミへの影響は10年、20年と調査を続けることで初めて見えてきます。大町で特徴的なエゾゼミの仲間たちは、将来も気温がさらに上昇してしまうと、どうなってしまうのでしょうか。今後も調査を続け、こうしたセミたちの変化を明らかにしていきたいと考えています。

浜田　崇（長野県環境保全研究所）
宮野典夫（市立大町山岳博物館）

今年のセミのぬけがら調査は、8月3日（金）午前10～正午に山岳博物館前の公園で行います。
みなさん、ぜひ、ご参加ください。

■持ち物：飲み物、帽子、タオル、筆記用具　■雨天時：雨天決行
■申込方法：氏名（ふりがな）住所、電話番号、年齢または学年を明記して電話、FAX、メールで
■申込先・問合わせ先：長野県環境保全研究所　〒381－0075 長野市北郷2054－120
電　話 026-239-1031
FAX 026-239-2929
Eメール kanken-shizen@pref.magamo.lg.jp

博物館のひろば

『研究紀要 第3号』を発行

平成30年3月31日

博物館の活動や北アルプスの自然史と山岳文化史などの調査研究に関する学術的な論文・報告等を掲載する刊行物『研究紀要』第3号を発行しました。

今号は「カクネ里雪渓（氷河）学術調査特集号」として、これまで取り組んできた鹿島槍ヶ岳カクネ里での氷河を中心とした総合的な学術調査に関する論文や報告を収録しています。

研究紀要はバックナンバーも含め、当館公式ウェブサイト上で一般公開しています。

理科野外学習「八坂地区の地層観察」

平成30年4月10日

当館では学校へ講師を派遣する連携授業を実施しています。

新年度の最初に八坂中学校２年生の理科授業として、一千万年ほど前の八坂が海だったころに堆積した地層を調べ、地層の分布図と断面図をつくりました。上篭地籍で植物の葉、橋木地籍では貝の化石を見つけ夢中で採集しました。

その後、大塩から橋木までの地下断面図を作成し、小川層の厚さや地殻変動で大きく曲がっていることを発見しました。

山岳博物館友の会から創立40周年記念品

平成30年4月15日

山博友の会創立40周年記念パーティーの席上、記念事業の一環としてライチョウ飼育事業の再開とライチョウ舎の完成に伴うライチョウ保護事業の教育普及のために、ディスプレイ一式を寄贈いただきました。当日は宮澤友の会会長から牛越大町市長に目録が授与されるとともに、ディスプレイのお披露目が行われました。

高額なご寄贈に心より感謝し、有効活用して参ります。

地域の自然を題材にした研究に協力

平成30年6月17日・6月17日

当館では、山博友の会会員らと居谷里湿原等での観察をもとにした企画展「くさばなの一生」（平成23年）を開催し、ミズバショウの生活史や生物間関係について紹介しました。

また、長野県環境保全研究所との連携・協力協定のもとミズバショウの生活史について発表（平成30年）し、今年からは東京農業大学の学生（M1）が同湿原で取り組んでいるミズバショウ（右写真）とザゼンソウ（左写真）の立地環境等に着目した研究に参加協力し、地域の自然にかかわる研究を進めています。

環境整備ボランティア

平成30年4月29日

今年も総勢75人にのぼる天理教大北分教会の皆様から、山岳博物館周辺の清掃や草取りなど、小さなお子さんも加わってボランティア活動を行っていただきました。

北アルプス眺望の名所でもある大町公園や博物館周辺も綺麗になり、ゴールデンウィークに全国から訪れる大勢のお客様に、残雪の山並みとともに気持ちの良い大町を楽しんでいただけたものと思います。

ボランティア作業に参加された皆様方に感謝申し上げます。

いしかわ動物園職員、飼育管理研修

平成30年5月16日～17日

ニホンライチョウの飼育管理研修のため、石川県のいしかわ動物園の飼育スタッフ2人を受け入れました。

同園では昨年も孵化に取り組みましたが、1羽が孵化したものの４日目で死んでしまいました。

今年、再び孵化・育雛に取り組むことから飼育に関する詳細な事柄についてまで意見交換を行いました。

同園では6月13日、他園から受け入れた受精卵から3羽が無事孵化したとのことです。

当館での研修成果が、順調に育つために役立てばと思います。

山岳博物館　市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第3日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています（これらの日については、大町市民以外の長野県民は団体割引料金でご覧いただけます）。7月14・15日、8月18・19日、9月15・16日が実施日となります。

雪形写真展 5月8日～27日　雪形ウォッチング 5月13日・27日 第17回北アルプス雪形まつりで、カクネ里氷河パネル展開催 5月19日

雪国大町ならではの春の訪れをつげるイベント「第17回北アルプス雪形まつり」が大町市文化会館を主会場に行われました。今年は鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓が氷河と認められたことから、来場の皆さんに氷河調査の様子などをご覧いただこうと特別展「カクネ里氷河パネル展」を行いました。カクネ里をご存じない方もおいでになり、大町の新たな宝に理解を深めていただけたものと思います。

また、北アルプス雪形まつりに併せて、この時期、雪解けとともに北アルプスの山並みに現れる「種まき爺さん」などの雪形を知っていただこうと、古くから地元で伝承されている雪形を写真で紹介し現地を見学する「雪形ウォッチング」を開催しました。これがあの「武田の家紋・武田菱か」と感激の声をあげた2日間でした。

第7回梅棹忠夫・山と探検文学賞授賞式 平成30年5月20日

5月20日、信濃毎日新聞社松本本社「信州メディアガーデン」で開催された授賞式に出席しました。

同賞は、山岳に造詣が深かった故「梅棹忠夫」氏を偲び、平成24年度に創設され文学賞で、その折には当館も深く関わりました。

本年度は、対象作品50点の中から大竹英洋さんの著作「そして、ぼくは旅に出た。」が受賞されました。

「そしていまも、旅はつづく。ー北の森にオオカミを求めてー」と題した大竹さんの記念講演も開催されました。

小学校青木湖キャンプ 平成30年6月14日

大型パネルや実物を示しながら、面白おかしく展開する「青木湖なぞ解きウォークラリー」を今年も大町西小学校に提供しました。今後も、大町南小学校と大町北小学校で予定されています。

このプログラムは、青木湖のでき方や住んでいた縄文人、周辺に生きる動物を知り、便利になった私たちの生活と引き換えとした自然を紹介し考えていただく内容です。市外の小学校からの要請にも対応しています。

ライチョウ繁殖、飼育に寄付金 平成30年6月15日

6月15日、大町温泉郷観光協会と黒部観光ホテルから、当館で飼育するニホンライチョウの繁殖、飼育に役立ててほしいと、多額のご寄付をいただきました。

寄付は、同ホテルが実施する売り上げの一部をライチョウのために充てる宿泊プランの利用者や、大町温泉郷内の各ホテルに設置された募金箱に観光客の皆様などからお寄せいただいたものです。

今後のニホンライチョウ繁殖事業や飼育研究に有効に役立ててまいります。

人事異動

4月1日付の人事異動により、欠員となっていた動物担当の学芸員に、市福祉課から栗林勇太さんが着任されました。

子どもの頃から生き物が好きで、今もバードウォッチングや昆虫採集などに出掛けています。

絶滅が危惧されているニホンライチョウをはじめ山岳博物館で保護飼育されている動物の適切な管理、研究や自然科学を中心とした教育普及事業を担当します。

山岳博物館は、館長以下13名の体制となりましたが、成果の社会還元である教育普及事業にとどまらず、ライチョウやカクネ里雪渓学術調査のような、学芸員等がそれぞれの専門性を活かした調査・研究の蓄積にも取り組んでまいります。

こども博物館

大町のでかい!!昆虫

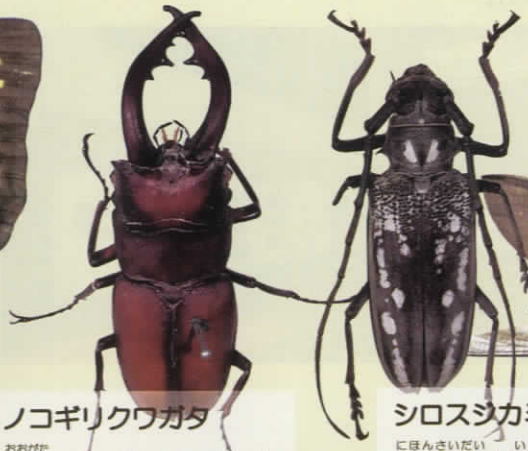
夏休み特集

大町にはたくさんの昆虫たちが暮らしています。特に夏はたくさんの昆虫を見ることができます。その中でも特に感動するのは、なんといってもでかい昆虫を見つけた時！ここでは大町で見られる大きな昆虫たちを紹介します。この夏は昆虫に出あいに、森に、山に、湖に出かけましょう！

（※写真は実物大）

オオムラサキ

日本の国蝶でもある大きくて美しいチョウ。クヌギなどの樹液に集まります。



ノコギリクワガタ

大型のクワガタ。クヌギ、ナラなどの樹液に集まります。

オニヤンマ

日本最大のトンボ。田んぼや林道などでみられます。

シロスジカミキリ

日本最大と言われるカミキリムシ。クヌギ、コナラなどの樹皮を食べています。

キアゲハ

黄色が特徴の大きなチョウ。明るい草原などで、花を求めて飛びまわっています。

カブトムシ

有名な夏の虫。森や林にすみ、クヌギやコナラなどの木に集まります。

ミヤマカラスアゲハ

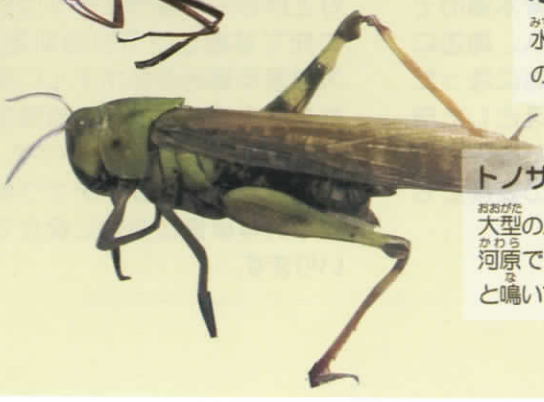
色合いのあざやかなチョウ。山地の渓流などで水を吸っているところが見られます。

ヤママユ

大型のガ。クヌギやコナラなどの雑木林や夜の街灯で見かけます。

オオルリボシヤンマ

水色が特長のトンボ。大型の池や湖などで見られます。



トノサマバッタ

大型のバッタ。乾いた草地や河原でみられ、ジリジリ‥と鳴いています。

山博（さんぱく）友の会だより

平成30年度総会・40周年記念講演会・記念パーティー

▲平成30年度総会風景

今年は「大町山岳博物館友の会」が昭和53年8月に再発足してから40周年の記念の年にあたります。

例年にも増して、博物館との共催事業や、自主事業が盛りだくさんに予定されています。

記念の年の最初の事業として行われたのが、4月15日の平成30年度総会です。総会に引き続き日本登山医学会認定山岳看護師の高橋恵子さんによる「楽しく安全な登山のために」と題する講演会が開催されました。

山での緊急対応や登山を行うにあたっての日頃からの予防などに関して、大変役に立つ内容の講演でした。

講演会終了後には、節目の年を「山博友の会創立40周年記念パーティー」で祝いました。様々なアトラクションが用意され、40年間にわたる活動スライドの上映や、山の歌を全員で合唱するなど楽しく懐かしい時間となりました。

山と自然を愛する楽しい人たちが集い、学ぶ「山博友の会」は41年目に向けてスタートしました。

▲友の会40周年記念講演会

▲40周年記念パーティー

サクラソウの駅前栽培展示

今年も山博友の会サークル「ボランティアの会」の皆さんのご協力のもと行いました。

野生のサクラソウは生息の環境変化や生息地の減少で今では長野県絶滅危惧Ⅱ類に指定され、長野県希少野生動植物として条例により保護されています。

大町市でもかつては自生地がいくつかあったようですが、現在は風前の灯です。

そういった現状を知り、地域の自然について考え、興味関心を持っていただくことを目的とした展示です。

春のバードウォッチングを開催

5月12日

講師に鳥羽悦男さん腰原正巳さんをお呼びして、春のバードウォッチングが鷹狩山で行われました。朝の早い時間からの企画でしたが参加者は20名を超え、好天に恵まれるなか無事に終えることが出来ました。

この企画は一旦終了としたものの、再開を願う声が多く、希望者の声に応えるなか再び行われる運びとなりました。

講師の指導により、ホオジロ、オオルリ、エナガなどが観察されたほか、山の子村ではトラツグミやツツドリなどの声を聞くことができました。

鳥がいる場所や鳥の声は種類によって異なり、鳥を発見したり声で種類を判別するには豊富な経験や知識が必要になります。今回初めて探鳥会に参加した方もいて、これからバードウォッチングを始

めるための知識が得られたことと思います。また、珍しい鳥を見つけた時に参加者同士で感動を共有し合えることも探鳥会ならではのもので、野鳥に親しむ上で非常に貴重な体験

友の会会員随時募集中!!

山と自然や人とのかかわりについて知りたい！学んでみたい！という人たちが集う会です。

入会すると楽しい仲間と様々な特典が待っています。

お問合せは、山岳博物館内友の会事務局へ

TEL/FAX 0261-23-6334

展示・イベントのご案内

平成30年度 市立大町山岳博物館企画展

「北アルプス誕生 ー激動の500万年史ー」

■会期　7月21日（土）
　　～11月25日（日）

北アルプスの麓に生活する私たちは山々の雄大さと四季折々の美しさに感動します。この山脈はいつ頃、どのようにしてできたのでしょうか? 本企画展では、最新の研究成果をわかりやすくご紹介します。現在の北アルプスの姿からは想像もできない激動のタイムトラベルをお楽しみ下さい。

■会場　市立大町山岳博物館
■入館料　通常の入館料が必要
※会期中、常設展示「山と美術」はご覧いただけません。

企画展関連催し

◆ミュージアムトーク

■日時　7月21日（土）
午前10時と午後2時［各約20分］
企画展の展示概要を解説します。
■会場　企画展会場
■申込　不要

◆さんぱく こども夏期だいがく 親子の化石教室『信州が海だった頃』

■日時　8月5日（日）
　　午前10時～正午

夏休み中の小学生対象の催しです。500万年前の浅い海にたまった地層を観察し化石を採集、大地のつくりと変化を体感・学習します。（閉会時に修了書を授与します。）

■集合・解散　現地
（下水内郡小川村小根山）
■対象・定員
小学生と保護者10組（計20名）
■費用　無料
■申込　7月5日（木）午前9時～
先着順　※定員になりしだい締切
■雨天時　山岳博物館で『地球の宝石箱づくり』を実施。
※詳細は、お申し込みの方へ郵送

◆北アルプス地質見学登山 ―爺ヶ岳にカルデラ湖があった頃―

■期日　8月18日（土）～
　　8月19日（日）【雨天中止】
■共催　長野県山岳総合センター・
　　大町山岳博物館友の会

250～ 150万年前に存在した巨大カルデラの断面を爺ヶ岳で、観察しながら、「北アルプスの成り立ち」を学びます。

講師は、北アルプスの地質研究の第一人者原山智先生（信州大学特任教授）。

■日程　扇沢駅【午前7時集合】ー種池山荘（講習・宿泊）ー 爺ヶ岳ー扇沢駅14:00【解散予定】　（左下へ）

※混雑期のため扇沢駅へは路線バス利用をお奨めします。
■対象・定員　爺ヶ岳への1泊登山が可能で、原則65歳以下の方20名（持病のある方等は事前にご相談ください）。小学生は保護者同伴。
■費用　参加費3,000円（資料・保険料等）、別途交通費（2,820円）宿泊費（9,800円）の個別支払いが必要となります。
■申込受付　7月5日 午前9時～先着順　※定員になりしだい締切
※詳細は、お申し込みの方へ郵送

"信州" 山の自然楽講座
長野県山岳総合センター・市立大町山岳博物館連携事業

「花と昆虫　その生物間関係を学ぶ in針ノ木雪渓」

■期日　7月18日（水）
　　午後7時～ 8時30分
7月19日（木）午前6時30分
　　～午後3時30分

1日目の講義で花と昆虫の関係について学び、2日目は講師（当館学芸員）と一緒に籠川谷（針ノ木雪渓）で花と花に集まる昆虫の観察をします。

■会場　1日目　山岳総合センター
2日目　扇沢駅～針ノ木雪渓周辺
■対象・定員
1日目　30名　2日目　10名
（2日目のみの参加はできません。）
■費用　1日目　無料
　　2日目　5,000円

1,500円で山岳総合センターに宿泊も可能です。　（右上へ）

■申込・問合せ
7月13日（金）までにホームページ、またはFAXで長野県山岳総合センターへ
http://www.sangakusogocenter.com/
TEL22－2773　FAX22－5444

第14回安曇野アートラインシンポジウム「山岳絵画の魅力を語る」

■日時　9月23日（土）午後1時30分～
■会場　松川村　すずの音ホール

北アルプス山麓の安曇野市から白馬村にかけて点在する19の美術館、博物館を結び当館も加盟する「安曇野アートライン」ではシンポジウム「山岳画の魅力を語る」を開催。

毎日見慣れている故郷の山が、画家の目を通してどのように描かれ表現されているのか改めて見直すことで新しい発見や感動を呼び覚ますことにつながればと思います。

■申込不要、当日会場へ

このページの情報へのお問合せ、お申し込みは特に記載が無い限り山岳博物館へお願いします。

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM ―創立1951年―
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211　FAX. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com

2018 夏号
第63巻1号

発行日　2018（平成30）年6月26日
印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030　FAX.0261-23-2010